

# まちのわだい

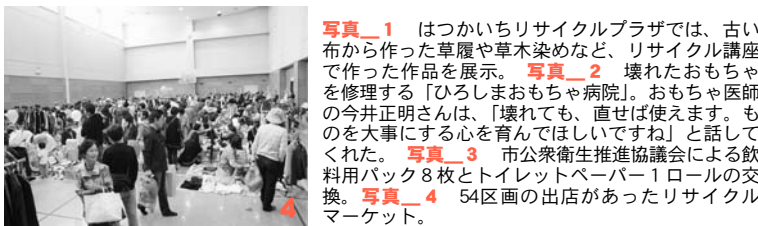


写真1 はつかいちリサイクルプラザでは、古い布から作った草履や草木染めなど、リサイクル講座で作った作品を展示。写真2 壊れたおもちゃを修理する「ひろしまおもちゃ病院」。おもちゃ医師の今井正明さんは、「壊れても、直せば使えます。ものを大事にする心を育ててほしいですね」と話してくれました。写真3 市公衆衛生推進協議会による飲料用パック8枚とトイレトペーパー1ロールの交換。写真4 54区画の出店があったリサイクルマーケット。

はつかいち環境フェスタ2012

## エコな暮らしの きっかけにしてください

10月14日、サンチェリーとその周辺で、「はつかいち環境フェスタ2012」が行われました。

会場がオープンする10時前には長蛇の列ができ、エコに対する市民の関心の高さが伺えました。会場では、シルバー人材センターによるリユース家具・自転車の販売や、はつかいち市民図書館による雑誌のリサイクル市などのエコやリサイクルに関するブースが並んだほか、リサイクルマーケットや、エコカーの展示・試乗会も行われました。

フリーマーケットを見に来たという吉田政史さん(40歳)は、「ちょっとしたことで、大きな節約になることが多いことを改めて知りました。これを機に、普段の生活を見直していきたいです」と話してくれました。

当日の来場者は約1,500人。マイ箸持参で割引があるエコレストランで食事をしたり、ステージで着ぐるみのペンギンと一緒に写真を撮ったりと、思い思いにフェスタを楽しんでいました。

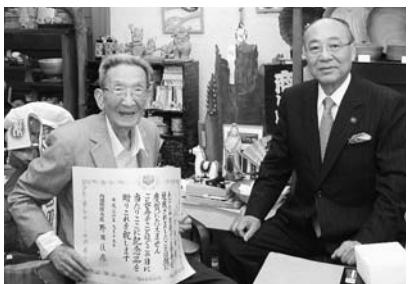
社会に貢献した高齢者を祝う

## 100歳の元気な笑顔に 会いました

9月22日、9月の老人保健福祉月間に合わせて、100歳を迎えた矢の武雄さん(宮島町)を眞野市長が訪問し、記念品などを贈呈しました。

矢のさんは、今も民芸品店の店先に立ち、宮島を訪れる人との交流を楽しんでいます。

「まだまだ人生折り返し、これから再スタート、みんなに元気を届けることが私の役目です」と抱負を話してくれました。



市では、今年度29人に記念品などを贈り、長寿を祝った。

通学路の緊急合同点検

## 子どもたちの安心、安全な 登下校のために

4月以降、登下校中の児童などの列に自動車が入り込み、死傷者が発生する痛ましい事故が相次ぎました。

これを受けて、通学路における交通安全を一層確実に確保するため、文部科学省、国土交通省および警察庁では、連携して対応策を検討し、通学路の安全点検や安全対策を検討しています。市内でも関係者が集い、通学路の緊急合同点検を実施しました。



写真は、津田小学校の通学路。10月9日、学校関係者、道路管理者、警察署、教育委員会が集まり、さまざまな意見を出し合った。

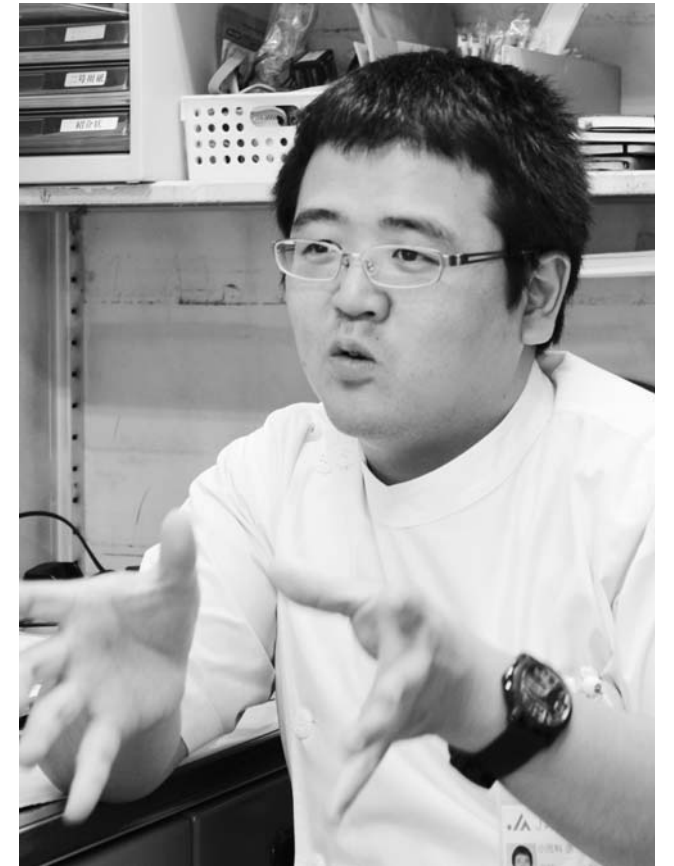
第33回健康を守る集い

## 健康で過ごすために 普段からの健康チェックを

10月14日、第33回大野健康を守る集いが大野福祉保健センターで開催されました。会場では健康チェックコーナーや健康相談コーナーが設けられ、来場者は血圧測定や血管年齢測定、体力測定を行い日頃の健康に対する興味を深めていました。開会式で中丸実行委員長は「病気になって初めて気付くことが多い。この機会に皆さんがさらに健康を増進し、病気の予防に努めてほしい」と話しました。



「お口の健康コーナー」で歯磨きの指導を受ける板木航大君(5歳)。会場では検診のほか、ウォーキング大会も行われた。



佐伯地区 医師会  
ひぐち・こうしょう  
樋口 公草先生

## なるほど!!健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎01610

# 子どもによくある感染症 溶連菌感染症

「昨日から熱が出ました。風邪かと思つて様子をみてたんですけど、今朝から体に小さなブツブツが出ていますし、ご飯も食べなくなつたんです」  
これは小児科外来で時々見られる光景ですが、これらは溶連菌感染症の症状でもあります。

群β溶連菌や、新生児期の感染症として知られるB群β溶連菌など多くの種類がありますが、今回は、A群β溶連菌についてお話したいと思います。

**このような症状があれば溶連菌?**  
典型的には、発熱、喉の痛み、食べ物や飲み込みにくいなどがあり、扁桃腺は黄く灰白色の膿のようなもので覆われます。また全身に赤い小さな発疹を認め、治癒後

に手や足では皮がむけることもあります。皮膚への感染ではとびひ(伝染性膿痂疹)の原因菌としても知られており、小さな水ぶくれや、かさぶたを伴った病変を認めます。

溶連菌の診断は細菌の培養検査にて確定されますが、現在は喉を綿棒でぬぐって行う迅速検査により診断することが出来ます。これは10分程度で検査結果が判明しますので、その場で診断することが可能です。

また学校や保育園へ戻る時期ですが、適切な治療開始後24時間感染性は消失しますので、抗生剤の内服を開始して24時間たつて、解熱していれば大丈夫です。

溶連菌感染症は発熱や皮膚症状だけでなく、その後の合併症にも注意が必要ですので、医師の指示を守り、経過を確認していくことが大事です。

**治療**  
抗生剤の内服です。薬の種類により異なりますが、5〜10日間の内服が必要で、また後述べる合併症予防のためにも重要ですので、「熱が下がったから、残りの薬は次にとつておこう」ではなく、処方されたとおり全内服することが大事です。

**溶連菌感染後の注意点**  
他の感染症と異なりやっかいな点は、治療後数週間して別の合併症を引き起こすおそれがあることです。その中でも急性糸球体腎炎が有名です。これは溶連菌感染後に1〜2週間、皮膚感染では3〜6週間して生じ、頻度としてはそれぞれ約5〜10%、約25%と言われています。症状はコーラ色の尿尿量の減少、むくみ、高血圧などで、このような症状が現れた場合、多くは入院管理が必要のため、早めに受診してください。